

挨拶

退任挨拶

前会長

田 中 稔 一



皆さん、こんにちは。田中でございます。本日をもちまして、私の日本知的財産協会の会長職が任期満了でお役御免となります。この激動の2年間、つたない会長を支えてもらい、当協会の発展に文字通り献身的な働きをしていただきました会員各社の皆さん、事務局の皆さん、大変ありがとうございました。心から厚く御礼申し上げます。

2年前に会長就任を打診されました時は、私の知財への理解も不十分で、何よりも世界最大の知財制度ユーザー団体としての当協会の会長職が果たして私に務まるのかなと些か不安でしたが、当協会はミッションごとの組織が完璧に整備されており、加えて会員各社の皆さんの意識レベルの高さと知財への情熱の深さには目を見張るものがあり、お蔭様で私も何とか今日までやって来られたのかなとホッとしております。

この2年間を振り返りまして、つくづく、世界は政治・経済ともに激動の連続だったと思います。世界の政治はポピュリズム・保護主義の台頭とテロの蔓延でより混沌となり、経済的にも先進国のもたつきと新興国の低迷などで混迷の度を増しました。一方で、世界は第4次産業革命の真っ只中となり、イノベーションによる新たな価値創造が次々に勃興し、ビジネスモデル大変革の時代に突入した感があります。知財においても、先ほどの井内局長（内閣府 知的財産戦略推進事務局）のお話にもございましたように、様々な大きなテーマが出てきております。ビッグデータに関わる知財をどうするのか、AIが生み出す「創作」物をどう扱うのかなど、新たな課題が次々に出現しており、正に変革の時代の幕開けとなりました。

こうした激動の中、当協会は21の委員会、7つのプロジェクト、国内外での意見発信・施策提言など皆さんの精力的な活動により大きな成果をあげてきました。当協会が一層の社会的使命と責任を果たして行くため、一般社団法人への昇格（2014年）に続き、新たに経団連にも加盟することができまして、当協会の社会的プレゼンスは飛躍的に高まりました。これも偏に皆さんの努力と関係各位のご支援の賜物と感謝しております。

会長を拝命して私が感じましたことは、知財戦略が経営戦略にとって如何に重要かということ、これを肌身に沁みて思い知りました。私も現役の経営者の時に知財への理解をより深めていたなら、もっと違ったより良い経営戦略が構築できたのではないかと今更ながら少し残念に思うところがあります。こうした私の思いを汲んでもらい、昨年6月には「企業経営者向けグローバルビジネスシンポジウム」を開催していただき、現役の経営者の方々や衆議院の先生方等と活発な意見交換を行うことができ、経営戦略における知財戦略の重要性についてお互いの認識を深めることができたのではない

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

かと思えます。また今年に入ってから、読みやすい『季刊じば』も発行することができ、知財の重要性と当協会の活動を広く一般に理解してもらうための良いきっかけになったのではないかと期待しております。

これから世界は、二国間・多国間のFTA・EPAなどの経済連携の動きが一層加速することとなり、国家戦略・経営戦略としての知財戦略は益々重要視され注目を浴びることになると思われます。そうした更なる変化の中、豊富な経営経験と立派な見識をお持ちの佐藤新会長のリードのもと、当協会が更なる発展をされ、会員各社の皆さんが益々躍進されますことを祈念致しまして、簡単ではございますが会長退任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

